

4 主要な教育研究設備

4.1 主要教育研究設備

飛騨天文台

60 cm 反射望遠鏡、65 cm 屈折望遠鏡、60 cm ドームレス太陽望遠鏡 (DST)、
太陽磁場活動望遠鏡 (SMART)

花山天文台

45 cm 屈折望遠鏡、70 cm シーロスタット太陽分光望遠鏡、
花山天体画像解析システム、18 cm 屈折太陽 H α 望遠鏡 (ザートリウス望遠鏡)

4.2 平成 23 年度の主な改修改良事項

(1) 飛騨天文台 計算機ネットワーク整備

飛騨天文台では7月に14台の無線 LAN アクセスポイントの設置が行われた。京都大学内での無線 LAN 環境の充実を目的としてアクセスポイントの設置が進められており、その一環として導入されたものである。管理棟の食堂、管理室、廊下に1台ずつ、研究棟1階の廊下に2台、研究棟2階の図書室と廊下に1台ずつ、研究棟3階の会議室と観測資料室に1台ずつ、研究棟4階の廊下とデータ処理室に1台ずつ、65cm 棟に1台、ドームレス棟に1台、SMART 観測室に1台の配置で、飛騨天文台のほぼ全域で使用可能となった。今回のアクセスポイントでは、京都大学内で共通の設定で使用できる MIAKO ネットと、国際無線 LAN ローミング基盤 eduroam に接続ができる。学内の方は MIAKO ネットに接続する設定をしていれば、飛騨天文台来訪時に特に設定を行うことなく無線 LAN が使えるようになった。また eduroam はこれに参加している機関 (特に大学や国立の研究所などが多い) であれば、国際的に同じ設定で無線 LAN を使用することができる。

(野上)

(2) 花山天文台 計算機ネットワーク整備

今年度は、主に、(1) SMART 観測データ蓄積用装置の増強、(2) ウィルス対策ソフトのライセンス更新、(3) KUINS-III 接続の無線 LAN ハブ増設、を行った。各事項を順に報告する。

(1) SMART 観測データは、解析環境提供及び公開のため、花山天文台のネットワーク上へ置いている。既存の SMART 観測データ蓄積用装置では、次年度以降のデータ蓄積場所を確保できないことから、RAID6 対応の大容量データ蓄積装置を1台増設した。この装置は、ファイバチャネルにより、既存のものと同様に、データ公開用サーバーへ接続されている。この増強により、約 36TB のデータ領域の増加となった。

(2) ウィルス対策ソフト (NOD32) のライセンスを、飛騨天文台と併せて計 100 ライセンス更新した。

(3) 共同研究などにより天文台への来館者が持ち込んだパソコンをネットワークへつなぐケースが増えてきた。そのため、不正通信の監視を厳しくする目的で、KUINS-III へ接続する無線 LAN ハブを本館 2 階、新館 2 階及び太陽館へ設置した。

(青木)